

診療放射線科通信

『腹部超音波検査で体の向きを変えるのは何故？』

— 『観察』と『所見』 —

観察とは

腹部超音波検査は内臓の病気の有無を見ています。臓器の形、大きさ、画像の濃淡(白黒の程度)、腫瘍の有無等、正常・異常を見えています。

観察するには

検査ではプローブ(手のひら大の器具)を体に直接あてて体内を観察しています。目的臓器が観察しやすい箇所は限られており、どこにプローブを当てても見える訳ではありません。

観察の為に

限られた箇所から臓器全体を観察するために体の向きを変えています。

①観察したい臓器を見やすい場所へ動かすために、目的臓器に適した体の向きになってもらっています。

②邪魔している臓器を動かして観察に適した状態にするために、体の向きを変える事もあります。

よりよい観察の為に

超音波検査にて数多く観察していると、各臓器に適した体位がわかってきます。見えやすさは個人差が大きいので、実際にやってみて見えにくい場合には違う方法での観察を試みます。体の向きを変える以外にも、息を吸う吐く、プローブで押す、時間をおく、装置の設定を変える等あります。実際の検査では様々な方法を組み合わせて良い状態で観察をしています。

診療放射線科通信

『腹部超音波検査で体の向きを変えるのは何故？』

— 『観察』 と 『所見』 —

所見とは

観察で得られた情報のことです。臓器のサイズ、辺縁の形、内部の構造や、病変があればサイズ、辺縁の情報、内部の状態、血流の有無等です。

診断するには

診断には検査の所見が必要となります。観察ができない臓器は超音波検査では診断不可となります。逆に多くの所見が集める事ができれば診断が付きやすくなります。

診断の為に

この特徴が見えれば診断できる所見があります。

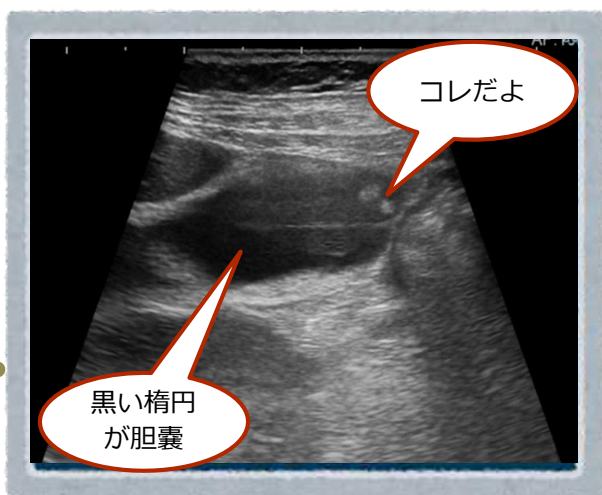
【胆嚢結石】胆嚢という袋の中に石ができる病気です。石なので内壁にはくっついていないため体の向きを変えると移動する様子が見られます。

【肝血管腫】肝臓によくできる良性の腫瘍です。内部に豊富に血液が流れていて体の向きを変える事で重力方向が変わり内部の白黒の濃淡が変化します。変化することからカメレオンサインと言われています。

よりよい検査の為に

体の向きを変える事はお腹の中をできるだけ観察できる状態にするためと、診断に必要な所見を多く見つける為におこないます。検査中に上体を少し起こす、左向きで寝る、右向きで寝る、うつ伏せ等お願いする事があります。よりよい検査の為にご協力お願いします。

『腹部超音波検査で体の向きを変えるのは何故？』
 — 『観察』 と 『所見』 頭の中では —



左向きに寝てもらった
 ら小腸が避けて胆嚢がよ
 く見えるようになったな。
 胆嚢の底部に丸いものが
 2つ見えるけど壁にくっ
 ついてないからポリープ
 より胆石を疑うな。仰向
 けになってもらって移動
 するか確認しよ。

観動
 査疑
 検査
 した
 超音波
 検査
 した
 な

